中国瀋陽方城における胡同の変遷

— 世界遺産のバッファゾーンのあり方に関する研究 —

秦 麗 — * 1 福川裕一 — * 2

キーワード：
世界遺産, バッファゾーン, 方城, 胡同

Keywords:
World Heritage, Buffer zone, Square city, Alley (Hutongs in Chinese)

1. 問題の背景と所在

世界遺産・故宮のバッファゾーンとなっている瀋陽市方城は、現在はアパートと商業施設に埋め尽くされているが、かつては人びとの生活の舞台となる胡同が発達し、生活感溢れる都市であった。本論文は、そのような胡同の過去及び現在の実態を明らかにする。

研究の背景には、ここ10年ほどでクローズアップされるようになった都市の世界遺産のバッファゾーンをめぐる問題がある。バッファゾーンのすぐ外で世界遺産へ影響を及ぼす大規模な都市開発が行われるケースが増え、バッファゾーンの有効性が課題となってきた¹⁾。バッファゾーン内では、世界遺産にふさわしい環境を整備すること、開発や建築について適切な規制を設定することなどが世界遺産登録の条件となっている。後者について、瀋陽市方城においても厳しい高さや色彩などについて制限が定められ²⁾、制限にあわない建物の減築などが実施されて来た³⁾。それでも、バッファゾーンのすぐ外に超高層ビルが建設される問題が起きている⁴⁾。しかし、本研究が課題としたいのは、前者の世界遺産周辺の環境整備のあり方である。

瀋陽市では、方城内で表1のような整備事業が行われてきた。全体としてモニュメント周辺に公園や広場、広幅員の道路を設け、モニュメントを周囲から際立たせようという意図が明確である。たとえば2010年の通天街拡幅は、故宮正面に、明朝時代の十字路のうち

表1：方城内の整備事業

1997：懷遠門と撫近門を復元
1998：瀋陽路を清代一条街に改造
2002：張氏帥府の改造
2003：盛京ガーデン（住宅団地）の上層2階を減築
2003：御苑新都（住宅団地）内6棟、東北石炭と地質局のオフィスビル、紅牆市場取り壊し（緑地と広場の整備のため）
2008：通天街計画、2010より拡幅の工事着手
2011：黄家大院、劉皮匠大院、豫親（十）王府取り壊し（瀋陽北中街商業広場の開発・整備のため）

THE TRANSFORMATION OF “HUTONG” IN THE SQUARE CITY OF SHENYANG, CHINA

— Study on buffer zone of World Heritage —

LI QIN — * 1 Yuichi FUKUKAWA — * 2

This study focuses on the process whereby “Hutongs” (urban alleys) have been destroyed in the Buffer Zone of Shenyang Imperial Palace. (World Heritage Site), based on analysis of old maps. It emerges that over half of these old alleys were swept away in the course of rapid urban redevelopment, to make way for commercial buildings and apartment houses. The paper concludes that the remaining Hutongs and their values could be important in furthering historical conservation and future planning in this area.

南北路の通天街を大通りに拡幅する事業である。関連する既往研究も街路や城壁などの歴史的な都市構造や点としての文化財（モニュメント）に注目するものがほとんどである^{5) 6)}。

これら事業は「モニュメントをいっそう美化するために、周辺の普通の町並みを破壊し、モニュメントだけを周辺の環境から切り離して保存する」⁷⁾という戦前の保存理論の再来に見える。1964年のベニス憲章⁸⁾は、「歴史的記念建造物」には、単一の建築作品だけでなく、特定の文明、重要な発展、あるいは歴史的に重要な事件の証跡が見いだされる都市および田園の建築的環境も含まれる。「歴史的記念建造物」という考えは、偉大な芸術作品だけでなく、より地味な過去の建造物で時の経過とともに文化的な重要性を獲得したものにも適用される。」とし、モニュメント中心主義からの転換を謳った。瀋陽故宮の「建築的環境」にふさわしいのは、長年にわたって市民が偉大なモニュメントと隣り合わせに築いて来た胡同の町並みであることは間違いない。

このような状況のもと、瀋陽方城のどこにどのような胡同が存在したかを明らかにし、現状を確認しておく事がきわめて重要である。

そこで、1917年、1927年、1955年、1989年、2004年、2012年の6段階の地図⁹⁾を使用し、胡同の変化を調べていく。なお、1917年と1927年の地図は辛亥革命後、1955年は新中国成立後、1989年は改革開放後、2004年は世界遺産登録直前の瀋陽を反映している。

2. 方城の概要と胡同形成の背景

方城は、遼寧省の省都である瀋陽市街の中央に位置する、一辺1.3kmの正方形の地区である。現在の姿は、清朝（1636～1912）前身の後金（1616～1636）が瀋陽を首都と定め盛京と改称した（1625）後の1630年代に完成したもので、「九宮格」と呼ばれる井形の大街路で分けた9街区の中央に故宮を置く、その時代のユニークな都市デザインをそのまま遺している。1644年に首都が北京へ移されたのちも陪都とされ、瀋陽の故宮は離宮として維持されてきた。この瀋陽故宮は、2004年、郊外にあるふたつの王墓とともに世界遺産に登録された。

¹⁾ 千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 博士後期課程 工修 (〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)

²⁾ 千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻 教授・工博

¹⁾ Graduate Student, Dept. of Architecture and Urban Science, Graduate School of Engineering, Chiba Univ., M. Eng.

²⁾ Prof., Dept. of Architecture and Urban Science, Graduate School of Engineering, Chiba Univ., Dr. Eng.

町の歴史は古く、唐代は瀋州、元代には瀋陽路、明代には瀋陽中衛が設置された。城内には、明清時代の長安寺、瀋陽故宮と將軍行署、民国時期の張氏帥府、偽滿時期の元日本南滿州鐵道株式會社など、長期に及ぶ歴史的な建物が遺されている。

現在の規模は1.7㎞²、69406人（戸籍上の人口）、人口密度は4.06万人/㎞²である。瀋陽市の繁華街・中街路はこの中にある。

この方城の街路の細部まで分かる最も古い地図でオリジナルが確認できたものは1917年の「奉天省城詳図」である。この図には、大路に囲まれた街区内部に複雑に発達した胡同が書き込まれており、胡同の存在を示すもっとも古い直接的な証拠となる。図1は、この図を現代の測量された地図に書き込んだものである。

このような胡同が、いつ、どのように形成されてきたかは、推測する以外ないが、以下に示すような瀋陽の都市としての成長を契機に、長い時間をかけて発達してきたものであろう。

①1653（順治10）年「遼東拓民開墾条例」^{注2)}の実施とともに、農業、手工業、商業が発展、山東省や河北省からたくさんの漢民族が方城内に移住し、鐘樓と鼓樓の間の四平街に絲房（織物屋）や薬局などを開設、今日の中街の基礎を築いた。

②地域行政政府として1657年に奉天府^{注3)}、1667年に承德県^{注4)}が設置され、地域の中心としての体制が整った。③1680年、方城の外へ八門と八関を設置、市街地が内方外圍（内城外郭）へ拡大した。④17世紀末期、関内（山海関より西の地域）の八旗軍が盛京に戻るとともに、河北省、河南省、山東省、山西省からの農民と商人が流入した。⑤乾隆帝（1735～1795年）、嘉慶帝（1796～1820年）の時代に、今日の規模の故宮が完成、政治経済の両面から重要な都市としての地位を確立した。方城内に「行」と「市」と呼ばれる市場が多数開設されたことがこの頃の記録に記されている⁹⁾。行や市の名前のついた胡同はこの頃から形成されたのであろう。⑥1862年、商工業者により奉天商界公議會議^{注5)}が長安寺内に開設された。商業者が力をつけてきた結果で、今も続く老舗が生まれた。中には胡同の名称になったものもある（中和福茶莊1882、慶方茶園1908など）。この頃には、図1の胡同はほぼ成立していたと思われる。

3. 胡同の変遷

3.1 20世紀初めの胡同と町の姿

表2に各地図に記載された胡同の変遷を整理した。1917年には127の胡同が書き込まれている。1927年には、6つの胡同の名前が変わり、張氏帥府邸

拡大で餘慶胡同が消えた。

このような胡同の性格や由来を知る手がかりはその名称であろう。

名称の由来は分かりやすく、以下のように分類できる：

- ①胡同の形（例えば：耳朵眼胡同、羊尾胡同など）
- ②人びとの願望や気持（例えば：三益胡同、人壽胡同など）
- ③自然景観（例えば：九門里胡同、北大門西胡同など）
- ④人物（例えば：錫翰林胡同、張蓋胡同など）
- ⑤商業活動（行、市、商品、店舗名など）
- ⑥施設（官公署、寺廟、王府、倉庫など）
- ⑦その他（例えば：羽振胡同、文字胡同など）

中街のある、北、中央、北東街区では⑤の商業にちなむものが多い。たとえば、中街にある広生堂胡同は、1537年創業の薬局・広生堂の横道である。対して南の3つの街区では、⑥の施設に由来するものが圧倒的である。「前朝後市」思想により大部分の官庁が南部に設けられた結果である。表2には、『陪都紀略』¹⁰⁾（1873）と『陪京雜述』¹¹⁾（1878）に出てくる行市を挙げた（図1では薄い斜線で表記）。行市は、文教地区である南東の街区を除くすべての街区に点在してい

- 注1 1917年の地図をもとに作成。ただしブロックのハッチングは1927年の地図による（同図では、大きな施設のあるブロックが着色されている）。
- 注2 行市の内容は、胡同の名称からわからないもののみを『□□市』のように示した。
- 注3 文化財（右記）は別の資料で補い黒く塗った。この中には1928～1933年に建設されたものも含まれる。なお、張作霖邸には習竹、資米、合餘慶という3つの胡同があった（表2）。
- 注4 城壁の位置は、西北角楼のみが地図上の手がかりである。よって東と南は正確な位置ではない。リブの数、壁の厚さ、門の大きさはおおよそあわせてあるが、正確ではない。

図1 20世紀はじめの方城

文化財：①長安寺②中心廟③瀋陽故宮博物院④西北角楼⑤盛京城壁の遺跡⑥東三省總督府⑦張氏帥府博物院⑧日本南滿州鐵道株式會社奉天公所⑨奉天商務總會⑩奉天基督教⑪吉順隆絲房⑫吉順絲房⑬利民地下商場⑭奉天同沢女子中学⑮東三省官銀号⑯偽滿警察署

表 2 胡同の変遷

注 1 胡同だけでなく、大街を除く「街」も含む。また本来城外であるが、城壁沿いにあった行市も含めた。

注 2 「→」その前の地図と同じ、「#」道はあるが名前が記入されていない、「×」道も名前もない、「不詳」道はあるが名前の記入がない、「-」短くなった、「+」長くなった。

注 3 由来欄：①胡同の形，②人々の願望と気持ち，③自然景観，④人物，⑤商業活動：a 行市，b 商品，c 店舗，⑥施設：a 寺，廟，b 王府，c 倉庫，d 官署，e 学校，

監獄，茶館等，⑦その他

注 4 備考欄：◎現在もそのまま遺っている，○幅が広がったが長さは変わっていない，△幅が広がり長さが短くなった，×消失した。

注 5 ☆：1917 年の名前を今も使っている胡同（8）（意味を継続しているもの、位置が少しだけ移動したものも含む）、P：警察署

【北西地区】

1917（127 条）	1927（126 条）	1955（125 条）	1989（99 条）	2004（65 条）	2012（56 条）	由来	行市等（清末期）	備考（消失後の状況と行、市の記録）
小北門楼西横街	→	小北門城西順城街	順垣巷	正陽街順垣巷	正陽街順垣巷	③	井戸、P	○
小西門里北横街	#	小西門里西順城街	×	×	×	③		×現在：平順社区
淡泊胡同	→	-	+千德路	-千德路	×	②		×現在：工事中 1955 年の千德胡同は 1917 年の淡泊胡同の西半分
咸梅胡同	→	塩梅胡同	+千德路	-千德路	×	⑤-b		×現在：工事中
馨德胡同	→	羽振胡同（2）	×	×	×	②	井戸、P	×現在：千德团地
三道湾胡同	→	→	×	×	×	①		×現在：千德团地
海宴胡同	→	-	×	×	×	⑦		×現在：千德团地
羽振胡同（1）	→	→	×	×	×	⑦	古着市	×現在：千德团地
俊巧胡同	→	→	×	×	×	②		×現在：千德团地
北大門西胡同	→	→	×	×	×	③		×現在：千德团地
北大門南胡同	→	→	×	×	×	③	牛馬の市、井戸	×現在：商業施設；<<陪都紀略>>(1873) 1917, 27 年地図には道自体がない
		存古齊胡同	二道湾と三道湾巷	×	×			

【北地区】

#	小北門楼東横街	#	九門路	九門路	九門路 [☆]	③		○
九門里胡同	→	→	×	×	×	③		×現在：商業施設
九門里西胡同	→	→	×	×	×	③		×現在：商業施設
蒼子胡同	→	→	-	-	×	③		×現在：工事中
木行胡同（上）	→	木行前胡同	藍亭巷	×	×	⑤-a	木行、井戸	×現在：工事中
木行西胡同	→	木行前胡同+	藍亭巷	×	×	⑤-a	木行	×現在：デパート（皇城恒隆広場）
木行胡同（下）	→	元大祥胡同	藍亭南巷	×	×	⑤-a	木行、井戸	×現在：デパート（皇城恒隆広場）
木行中心胡同	→	木行中胡同	+藍亭東巷	×	×	⑤-a	木行	×現在：工事中
賈記頭条胡同	→	賈記一条胡同	中福合東巷	不祥	不祥	⑤-a	P	△中和福茶庄（1882），老舗
賈記二条胡同	→	→	→	→	×	⑤-a		×現在：商業施設
賈記三条胡同	→	→	→	→	×	⑤-a		×現在：商業施設
康生染胡同	→	→	-銅行北巷	不祥	不祥	⑤-c		○
康生染場胡同	→	→	中福合西巷	×	×	⑤-c		×現在：商業施設
広生堂胡同	→	→	銅行北巷	不祥	不祥	⑤-c	木行	△現在の周辺：デパート；広生堂薬屋（1537）
官局子胡同	→	→	鐘樓北巷	鐘樓北巷	不祥	⑦		○
牆縫胡同	→	→	×	×	×	①		×現在：商業施設
悅来館胡同	→	→	漢宮巷	北中街	北中街	⑥-e		△現在：北中街の東端
萬興華店胡同	→	→	#	→	×	⑤-c		×現在：商業施設
#	#	十王府胡同	十王府巷	×	×	⑥-b	井戸	×現在：工事中
木行後胡同	→	→	藍亭後巷	北中街	北中街	⑤-a	木行、P	△現在：北中街の西端

【北東地区】

三益胡同	→	→	長安寺南巷	不祥	不祥	②	井戸	△
三益西胡同	→	→	×	×	×	②		×現在：商業施設
長安寺胡同	→	長安寺胡同	長安寺東巷	不祥	不祥	⑥-a		○長安寺の創立：（1403 - 1424）現省文化財（1989）
福合園胡同	→	長安寺胡同	長安寺巷	長安寺巷	長安寺巷 [☆]	⑥-e	梨市；両替場	○現在：中国工商銀行沈河区分行
魚行二条胡同	→	菓品行胡同	不祥	不祥	不祥	⑤-a	魚行	○『陪都紀略・魚行』*
官銀号北胡同	→	×	×	×	×	⑤-c		×官銀号の増建（1926）
鶏市胡同	→	東順城街	東順城内街	→	×	⑤-a		×現在：デパート（新盾安一族）
泰山銀炉西胡同	→	→	東一巷	→	×	⑤-a	両替場	×現在：デパート（新盾安一族）
泰山銀炉胡同	→	鶏市胡同	東一巷	→	×	⑤-a	井戸	×現在：デパート（新盾安一族）
聖壁半街	#	#	九門路	→	→	③	井戸、P	○
		長安寺後胡同	長安寺東巷	×	×			×現在：商業施設、1917, 27 年地図には道自体がない
（東木行）							木行	×位置：城壁外；現在：大北家私城（家具）

* 江海河魚，甕獐鹿稚，南北幹鮮，照常発市”（川と海の魚、いろいろな鹿の子供の、生と乾物が、いつも市場にある。）

【西地区】

万宝蓋胡同	→	→	万宝蓋巷	×	×	②		×現在：西華社区
羊尾胡同	→	→	西華羊尾巷	×	×	①		×現在：永楽華園（西華社区の一部）
羊尾胡同（南）	→	大泡子胡同	西華北巷	西華北巷	西華北巷	①	井戸	○現在：恒例の中古書市場
人寿胡同	→	→	肅王府巷	不祥	不祥	②	井戸	◎清朝初期から末期まで肅王府（写真 2）
幹石橋胡同	→	幹石橋胡同	幹石橋巷	×	×	③	井戸	×
不通行胡同	→	×	×	×	×	①		×隣接する建物の増築で胡同が消失
慶豊茶園胡同	→	幹石橋胡同	幹石橋巷	大舞台路（幹石橋巷）	大舞台路（幹石橋巷） [*]	⑥-e	慶豊茶園（1908）	△現在：大舞台と美食一条街
翰墨胡同	翰墨軒胡同	→	翰墨軒巷	翰墨軒巷	翰墨軒巷 [☆]	⑦		○現在：楽器店街
皮行胡同	→	→	万宝蓋巷	中街万宝蓋北巷	中街万宝蓋北巷	⑤-a	皮行	○『陪京雑述・厘市』と『陪京雑述・皮行』
師古胡同	→	→	玉石巷	不祥	不祥	②	骨董市場	○
祥麟胡同	祥林胡同	→	翔麟巷	中街玉石巷	中街玉石巷	⑤-c	祥麟園料理店	○
会館胡同	→	→	×	×	×	⑥-e		×現在：商業施設
牌樓胡同	→	→	鼓樓巷	鼓樓巷	鼓樓巷	③	食糧行	○『陪京雑述・厘市』*
石頭市胡同	→	→	万宝蓋巷	中街万宝蓋巷 瀋陽路 40 巷	中街万宝蓋巷 瀋陽路 40 巷	⑤-a	石頭市	△現盛京古玩城（骨董デパート）師古胡同から移動
		西順城内街	西順城内街	西順城内街	西順城内街			西側の城壁を取り壊した跡にできた道

【中心地区】

* 冬月糶車入城，各棧則露積云屯，崇墜比備（冬に馬車は食糧を運んで城の中に入り、各倉庫は山ほど積む）

双井胡同	→	→	宮後巷	×	×	③	井戸	×現在：デパート（興隆大家庭）
出額胡同	→	→	銅行西巷	×	×	②	珠寶玉石店	×現在：商業施設
福聚森胡同	→	#	×	×	×	②		×現在：商業施設
武陵館胡同	→	→	銅行西巷	×	×	⑥-e		×現在：デパート（興隆大家庭）
老天合西胡同	→	老天合胡同	天益堂巷	×	×	⑤-c	天合絲房	×現在：商業施設（写真 1）
老天合東胡同	→	老天合胡同	×	×	×	⑤-c	天合絲房	×現在：商業施設（写真 1）
銅行胡同	→	銅行+皮行半截	銅行巷	不祥	不祥	⑤-a	銅行	○『陪都紀略・銅器行』と『陪京雑述・厘市』
紅牆胡同	→	-	中心廟巷	不祥	不祥	③		○中心廟（1388）面積：15m ² 現瀋陽不可移動文化財
耳朶眼胡同	→	→	×	×	×	①		×現在：商業施設
洪裕胡同	洪水胡同	#	×	×	×	③		×現在：商業施設
中和胡同	→	→	皮行巷	×	×	②		×現在：デパート（大発商場）
中心廟胡同	→	紅牆胡同（横）	宮後巷	×	×	⑥-a		×現在：緑地

孫祖廟胡同	→	→	鐘樓南巷	×	×	⑥-a		×現在：商業施設
灰市胡同	→	→	故宮東巷	朝陽街故宮東巷	朝陽街故宮東巷	⑤-a	灰市	△
灰市前胡同	→	→	東華北巷	瀋陽東華北巷	瀋陽東華北巷	⑤-a	灰市	○
灰市後胡同	→	皮行二条胡同	東華北巷	瀋陽東華北巷	瀋陽東華北巷	⑤-a	灰市、井戸、P	○
皮行頭条胡同	→	→	鐘樓南巷	中街路鐘樓南巷	中街路鐘樓南巷	⑤-a	臭皮行	△『陪京紀略・臭皮行』*『陪京雜述・厘市』**
皮行半条胡同	→	紅牆胡同（縦）	#	不祥 中街路鐘樓南巷	不祥 中街路鐘樓南巷	⑤-a	臭皮行	△
皮行二条胡同	→	皮行一条胡同	中心廟巷	不祥	不祥	⑤-a	臭皮行、井戸	○
文字胡同	→	→	皮行巷	×	×	⑦		×現在：商業施設
			大衆巷	×	×			×現在：デパート（大発商場；1989年に出来た

* 鐘樓以西、股子靴皮、名臭皮行。水膠出奇（鐘樓の西に靴の皮を作るので、臭皮行をなづけ、材料の水膠も珍しい）
** 臭皮行、在中街南、洗濯一切牛馬皮革（臭皮行は中街の南に有り、あらゆる牛と馬の皮を洗濯する）

【東地区】

北蘆行胡同	→	→	→	→	→	③		○現在：王府華園団地の中（翠生社区）
竜王廟西胡同	→	→	花行巷	×	×	⑥-a		○現在：王府華園団地（翠生社区）/ 竜王廟：清初
莊王府胡同	→	→	庄王府巷	×	×	⑥-b		×現在：王府華園団地（翠生社区）/ 庄王府：清初
莊王府北胡同	→	庄王府後胡同	花行巷	×	×	⑥-b		×現在：王府華園団地（翠生社区）/ 庄王府：清初
大紅袍胡同	→	→	紅袍巷	大紅袍巷	→	③		△
雨栗胡同	→	→	庄王府巷	不祥	不祥	③		△
水鑑胡同	→	→	紅袍巷	×	×	③	井戸	×現在：御点江山小区（翠生社区）
月憲胡同	→	→	鐘樓東巷	×	×	③	島市と蟬遊び	×現在：翠生社区
魚行頭条胡同	→	→	紙行巷（-）、紅袍北巷	×	×	⑤-a	魚行と果市	×現在：商業施設/ 果市：『陪京雜述・厘市』*
三聖宮胡同	→	→	×	×	×	⑥-a		×現在：翠生社区
#	#	南順城街と北横街	東順城内街	東順城内街	東順城内街	③		△現在：紙銭行
		那家館胡同	×	×	×			×現在：公共施設、1917、27年地図には道自体がない
				朝陽街鐘樓南巷	→			2001年の団地開発で1989年の団地の間にできた道

* 果市は鐘樓南及内治門内大街。毎年八月十一日開市、各色秋果卒備、中秋後罷市。”（果市は鐘樓の南の内治門内大街にあり、毎年に8月11日には市場を始め、色々な秋の果物が揃い、中秋（旧暦の8月15日）が終わると、市場も終了する。）

【南西地区】

鄭親王府胡同	→	→	鄭親王府巷	不祥	不祥	⑥-b		△鄭親王府：清初
宗人府胡同	→	監獄胡同（下）	宗人府巷	×	×	⑥-b	井戸	×正義社区 / 宗人府：清初
宗人府北胡同	→	→	宗人府北巷瀋陽県前	承德路宗人府北巷	→	⑥-b		○宗人府：清初
鄭親王府南胡同	→	鄭親王府胡同	鄭親王府巷	×	×	⑥-b	井戸	×瀋陽市環境保護局 / 鄭親王府：清初
不通行胡同	→	×	×	×	×	①		×隣接する建物の増築で胡同が消失
監獄胡同	→	監獄胡同（中）	西鷹市巷	×	×	⑥-e		×正義社区
瀋陽県頭条胡同	#	瀋陽県一条胡同	承德路	承德路	承德路	⑥-d		○瀋陽県（1913年）承德県（1667年）から改名
瀋陽（承德）県胡同	→	→	承德路	承德路	承德路*	⑥-d	井戸	○瀋陽県（1913年）承德県（1667年）から改名
瀋陽県二条胡同	→	→	西華南巷	承德路宗人府北巷	→	⑥-d		△
錫翰林胡同	→	+	×	×	×	④	P	×昔：錫翰林の居宅；現在：正義社区
利發楼胡同	→	×	×	×	×	⑥-e		×瀋陽市同沢中学（1928、市文化財）新設で消失
西鷹市口胡同	→	→	→	×	×	⑤-a	西鷹市、井戸	×瀋陽市瀋河区委
習芸所胡同	→	→	習芸巷	×	×	⑥-e		×娯楽施設

【南地区】

金銀庫胡同	→	軍署街	盛京路	盛京路	盛京路	⑥-c	キセル店舗	金銀庫（清初）
東鷹市口胡同	→	→	×	×	×	⑤-a	東鷹市	榆蔭小区（帥府社区）
通濟倉胡同	→	→	少将府後巷	→	→	⑥-c	井戸	○榆蔭社区の中
道署衙門前胡同	→	#	榆蔭社区の胡同	→	→	⑥-d		○榆蔭社区の中
張蓋胡同	→	→	少将府後巷	朝陽街少帥府後巷	朝陽街少帥府後巷	④	井戸	○張氏帥府博物院：国家文化財
餘慶胡同	×	×	×	×	×	②		×張氏帥府の拡大（1918）
賓來胡同	→	（德隆店胡同）	（少将府巷）	不祥	不祥	②		○1955年に德隆店胡同の一部となった
蔵珍胡同	→	→	×	×	×	⑦		×現在：帥府社区
住吉胡同	→	老電話局胡同	×	×	×	⑦		×現在：帥府社区
間英胡同	→	→	少将府後巷	朝陽街少帥府後巷	朝陽街少帥府後巷	⑦		△
習竹胡同	→	×	×	×	×	⑦		×張氏帥府の拡大（1929）
金銀庫南胡同	→	金銀庫胡同	×	×	×	⑥-c		×現在：帥府社区
德隆店胡同	→	+	少将府巷	不祥	不祥	⑤-c		○1955年に賓來胡同を併せ長くなり今日に至る
同聚合胡同	→	→	少将府東巷	朝陽街少帥府東巷	朝陽街少帥府東巷	②		○（写真3）
秋爽胡同	→	#	少将府後巷	朝陽街少帥府後巷	朝陽街少帥府後巷	③	井戸	△
通天街	→	→	→	→*	→	③		○明朝時代の十字路のうち南北路の一部
德馨園胡同	→	→	#	×	×	⑥-e		○現在：商業施設
#	#	機関槍連胡同	東華南巷	瀋陽路東華南巷	瀋陽路東華南巷	⑥-d		○20年代初に張作霖の兵営

【南東地区】

(高麗館胡同)	#	→	×	×	×	⑥-e	井戸	×現在：翠生社区
書院胡同	→	→	文廟巷	不祥	不祥	⑥-a	井戸	○かつてあった萃升書院にちなむ。なお萃升＝翠生
景佑宮胡同	→	→	→	瀋陽路南蘆巷	瀋陽路南蘆巷	⑥-a		△景佑宮（明代）現奉天基督教教会（1914）
文廟後胡同	→	文廟胡同	×	×	×	⑥-a	P	×女子師範学校の増築
興仁県胡同	→	→	興仁巷	興仁巷	興仁巷 [㊞]	⑥-d		○1902年原承德県の東境（現在：撫順）事務を管轄
工部衙門胡同	工部衙門前胡同	工部衙門後胡同	工部巷	盛京路	盛京路	⑥-d	井戸	△昔：工部衙門（清初）
工部衙門前胡同	→	→	×	×	×	⑥-d		×現在：翠生社区
南蘆行胡同	→	南蘆行後胡同	南蘆巷	瀋陽路南蘆巷	瀋陽路南蘆巷 [㊞]	③		○
金王府胡同	→	→	金王府巷	×	×	⑥-b	井戸	×現在：翠生社区；80年代中期に金王府（清初）が消失した）
#	#	南横街	東順城内街	→	→	③		○

た。たとえば、南街区の金銀胡同は政府の金銀庫にちなむ名前であるが、そこにはキセル店が集まっていたことがわかる。

このような胡同の様子は、地誌に記録され、詩人によって詠まれた。たとえば銅行について、1873年の『陪都紀略・銅器行』は“鑿銅什件，響器撓拔，各貨俱全，家号太多（銅器の種類が完備し、商号も多い。）”、1878年の『陪京雜述・厘市』は“銅行，売各類銅器，在中街南，与木行相对（銅行，各種種類の銅器を売る、中街の南で、木行

の向こう側である）”と記している。ほかに皮行について“皮行，売一切皮革物件。在外攘門内大街，有碑坊（皮行は外攘門内大街にあり、牌坊もあり、ありとあらゆる皮の物を売る、『陪京雜述』）”、“狐貉虎鹿，細皮各種，生熟硝塩，刮板原散。（各種の動物の皮は硝面熟制法で作られた、『陪都紀略』）”。食糧市について、“糧市在鼓樓南大街。城門始開諸行齊来上市，争論価値高低，日高始散。路東茶館其落脚処也（食糧市は鼓樓南大街にあり、城門を開くと、市場がはじまる。みんな

交渉して、昼間までで交易が終わる。この近くにある茶室で一休みになる、『瀋陽百咏』¹²⁾”、牛馬の市場について、“外攘門里，驛馬猪羊，巡役舞弊，經紀平常（牛、馬の市場は外攘門の中にあり、市場の秩序が管理される。『陪都紀略』”などと記述されている。この牛馬行は税務署のそばにあり“税務衙門，在牛馬行，每届口期，五部俱想。經丞掌案，貼書上炕，小心盜漏，猪馬牛羊（税務衙門は牛、馬行の近くにあり、盜難や脱税などに気を付けなければならない、『陪都紀略』”と述べられていて興味深い。

いずれも19世紀後半の記録であり、胡同を舞台に100年以上にわたって市が栄え、政治都市瀋陽方城のそこそこに、故宮のすぐそばでも、人びとの活発な生活の営みがあったことが読み取れる。

3.2 1950年～70年代

1949年、中華人民共和国が誕生し、瀋陽市は新しい政治経済の局面を迎えた。この時代の様子は、1955年の「瀋陽市詳細地図」から読み取ることができる。1943年に始まった城壁の撤去が1958年に終了したが、街路はほとんど変わっていない。公共施設は、体制の変化に伴い用途や名称が大きく変わった。たとえば、張作霖官邸は東北図書館へ、女子師範学校は第七中学校へ、日本南満州鉄道株式会社は瀋陽市図書館へ変わった。胡同は、1927年の地図にあった6つが消え（道そのものが消え）、また32の名称が変わった（全く違う名前に変わったものは12）。しかし物理的形状は以前の状態が維持されており、5つの胡同が増えている（新設4、分割1）。

なお、1974年の「瀋陽市街図」では、道の形は変わらないが、「胡同」の名称が消え、街区ごとに「□□里」という名称が付されている。1966～1976年の文化大革命における「封資修」^{注6)}の批判のもとになされた措置と考えられ、胡同が否定的に捉えられていたことが分かる。この里名は、文化大革命終焉とともに消えたが、その後の地

図では「□□胡同」ではなく「□□巷」と記されるようになった。

3.3 1980年以降

1980年の改革開放以降、都市開発が活発化した（図2）。団地の開発自体は1966年から小規模に行われていたが（千徳団地など）、それが全面的に展開され、胡同の入り組んだ街区は、次々と団地に建て替えられた（正義社区、翠生社区、平順社区、帥府社区、西華社区）。中街路周辺では大型のデパートや高層ビルが建設され、町全体の容貌に影響を与え始めた。1989年「瀋陽街巷詳図」、2004年及び2012年の都市計画用の白図はその結果を示している。1989年の地図に記された胡同（巷）は99であるが、2004年は65、2012年は56と急速に減少した。2004年以降の消失の理由は商業施設への再開発が圧倒的となる（表3）。とくに近年の商業施設は大規模化し、多くは中街路の北に集中している。たとえば長安寺のある北東地区は、2011年、街区のほぼ半分を占める盾安新一族というデパート建設のためにほとんど更地となり、鶏市と泰山銀炉（西）胡同（1917年時点の名称、以下同じ）の3つが無くなった。北地区における2011年の黄家大院、劉皮匠大院、豫親（十）王府の取り壊しも商業施設開発のためで、賈記二条と賈記三条が無くなった。北西地区では2012年の大型デパート開発のために淡泊と咸梅胡同があった団地が解体された。

開発が進んだ反面、文化財の指定が進んだ。以前は1961年に瀋陽故宮が全国重点文化財に指定されていただけであったが、張氏帥府も1996年に指定され、さらに1910～30年代の、役所、会社、商店、学校など10点¹³⁾が各種の文化財となった（図1中⑦-⑩）。

3.4 方城胡同の現在

1980年以降の開発で、胡同を中心とする町並みが大きく変貌した瀋陽方城であるが、すべてが失われたわけではない。そこで、さらに詳しく、胡同の現状を追跡しよう。

1917年当時の胡同がそのまま遺っている（表2では◎で表示）のはわずかにひとつである。その他はすべて道幅が広がった。胡同は建物に囲まれた路地であるから、物理的・空間的な形状は失われている。それでも道の起終点が変わらない胡同（巷、○で表示）が35、起終点が変わった（短くなった）胡同（巷、△で表示）が20である。それぞれ典型的な事例をとりあげて見ていく。

① 遺された胡同（1）

西地区の東南隅、鼓楼（正陽）大街を隔てて故宮と隣あう人寿胡同が唯一の事例である（写真2）。この一角には古い長屋がそのまま残り、その隙間を縫うように胡同が形成されている。ここには清朝末期まで肅王府があり、1989年の地図には「肅王府巷」と記されている（その後の地図では名称は消失）。1897年の肅王府と周囲の住民

表3 1980年以降消失した胡同の位置と消失後の土地利用の種類（64）

地区	1989			2004			2012
	商業施設	住宅	他	商業施設	住宅	他	
北西		8					2
北	2			4	3		3
北東	1						3
西	1				3		
中央	4			8			
東		1		1	5		
南西			1	1	2	2	
南	1	3		1			
南東		2	1	1			
小計	9	14	2	16	13	2	8
合計	25			31			8

との間の土地を巡る訴訟の記碑が、1996年に近隣の団地開発で発見された。故宮に隣接するこの場所は、パツファゾーンの規制により高さが12mに制限されており、都市開発を免れて今日に至ったと思われる。現在は、廃品回収業者が集まる場所となっており、良好な状態に保たれているとはいえない。

②幅は広がったが、長さは保たれている胡同 (35)

北東地区にある長安寺南側の福合園胡同(現長安寺巷)と東側の泰山銀胡胡同には、近くに東三省官銀号もあって、両替商(金銭市)が集中していた。後者は大型商業施設の開発で一掃されたが、福合園胡同側には今も中国工商银行瀋河区分行があり、小さな金融街の面影がある。南東地区にある南蘆行胡同(現瀋陽路南蘆行)は南向きに文廟へ至る道であったが、現在もその跡と周辺には朝陽一小学校(1905年に文廟跡に設けられた)、瀋陽同沢高級女子中学分校、朝陽二小学校があり、文教地区の雰囲気が維持されている。南西地区にある瀋陽県胡同(現承德路)は、瀋陽県あるいは承德県の庁舎へ至る道であった。その反対側には瀋河区裁判所も設けられて、弁護士事務所が集まっている。起終点が保たれている胡同は、かつての性格がある程度維持されているものが多いと言えそうである。

③幅が広がり、短くなった胡同 (20)

四平街(中街路の真中の部分)の両側には多くの胡同が発達していたが、殆どが大型の商業施設となり、往時の雰囲気は北地区の東側に遺されるだけとなった。かつて、南北に抜けていた賈記という商号を冠した3つの胡同は、その南側(賈記頭条胡同)が遺っており、両側には1928年建設の百貨店・吉順絲房(現第二百貨商場)と吉順房も現存している。西地区の大舞台(慶豊茶園(1908))から奉天市役所へ至る慶豊茶園胡同と幹石橋胡同は、あわせて幅広の大舞台路となり、現在は美食一条街と呼ばれてレストランが並び、娯楽街としての性格を維持している。1917年の名前を今も使っている胡同は8条に止まる(表2注5参照)。よく遺された胡同は西地区にあり、いくつかは美食街、骨董街、楽器街などを形成している。

なお、方城内の行市はすっかり失われたが、かつては城壁外にあり、城壁が取り壊されてからは方城内となった行市には機能を継続しているものがある。北東角の城壁外にあった木行は、家具と木材や建築材料を売る大北家私城として、南東の城壁外にあった瓜行は、大東菜行として続いている。

4. まとめ

バッファゾーンの整備においては、ベニス憲章等に示されているように、モニュメントとともに生きてきた人びとの証しを大切にすることが必要である。瀋陽方城でそれにふさわしいのは、街区内に発達した胡同を介して生まれて生活感溢れる町並みであろう。1917年地図ではそのような127の胡同が確認された。しかし、1980年代に大規模な再開発が進んだ瀋陽方城では、それらはすでに失われているように見える。確かに1917年にあった胡同は71条がまったく消えた。一方、半数弱(56)の胡同が何らかの形で形跡をとどめている。まず、瀋陽の結果を他山の石として活かせるよう、検証し記録にとどめる必要がある。そして大規模な開発やモニュメント主

写真1: 老天合胡同^{注7, 10)}

写真2: 現在の人寿胡同

写真3: 朝陽街帥府後巷

義の整備を、新しい開発でも胡同の町並みの生活感溢れる性格を継承した計画へ改めていく必要がある。少なくとも旧名を大切にしてお人びとの記憶から失われないようにすべきだろう。例えば、昔の名前や関連する出来事、古地図や絵図等を記した碑等を立てることが一つの方法となる。胡同の形跡がよく遺されているのは西(7)、南(7)、南東(4)と北東(4)の各地区である。西地区ははじめ、大型商業施設の進出が少ない地区では、特徴ある商店街が形成されている。南地区では民国時代の張作霖官邸の周囲にまだ昔の胡同の雰囲気が漂っている(写真3)。南東地区は文廟を受け継ぐ教育施設と関係の深い胡同の形跡がまだ存在する。北東地区にはかつての金融街と関係ある胡同の雰囲気が残っている。今後の都市開発では、少なくともこれら四つの地区で適切なアーバンデザインをほどこし、文廟等歴史的施設跡の復元・整備とあわせて胡同が本来持っていた意味や良さを再獲得していく必要があると言えよう。

注:

注1) ベニス憲章:『記念建造物および遺跡の保全と修復のための国際憲章』。

注2) 遼東地区の開発を促進するための制度。同地区に定居し耕作をする人を集めると官位がもらえる仕組み。

注3) 奉天府:遼寧省範囲内に各県の“民人”(八旗以外)の事務を管轄する。

注4) 承德県:盛京に設立した県級の地方政府。

注5) 奉天商界公議会は、清咸丰年間(1851-1861)、商工業に関わる人々の利益を守るために設立された民間組織。1902年に奉天商務總會と改称。最初は長安寺の中に置かれたが、東北三省改制の後に奉天府のあった場所に移動。

注6) 封資修:封建主義、資本主義、修正主義の頭文字を並べた語句。

注7) 20世紀はじめの胡同の例。古い胡同の写真はきわめて少ない。そのころこの胡同は東と西に分かれていたが(表2)この写真がいずれかは不明。

参考文献:

- 1) 秦麗、福川裕一:歴史的な記念物周辺町並み保存整備に関する研究-中国瀋陽市故宮博物院を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、都市計画、建築社会システム、pp729-730、2010
- 2) 瀋陽市人民代表大会常務委員会公告:瀋陽市故宮、福陵、昭陵保護条例 No. 21、2003.6
- 3) 瀋陽市文化局:清瀋陽故宮保護計画、2003.5
- 4) 秦麗、福川裕一:Study on protecting Cultural World Heritage in Urban Area From Buffer Zone to HUL、2011年度(第82回)関東支部研究口頭発表会、景観と都市設計 7010
- 5) 田大方、林瑞雪:瀋陽方城歴史街区景観全体の設計に関する研究、低温建築技術、pp17-19、2011年03期
- 6) 石路:瀋陽方城歴史街区の保護と更新に関する研究(修論)、同濟大学2007
- 7) 陣内秀信:イタリア都市再生の論理、鹿島出版会、pp.15、1978.11、
- 8) ①1917年、1927年、1989年の地図は、瀋陽市都市計画と国土資源局、瀋陽市勘察測絵研究院編制『瀋陽地区管轄』所収の13枚のうち、方城内が詳細に描かれているものを選んだ。②1955、2004、2012年の地図は、同院が作成した電子版を使用。各地図の詳細は以下の通り:奉天省城詳図(1917.9、1:5000):所蔵:遼寧省アーカイブ、測量:東三省陸軍測量局;奉天省城市街全図(1927.12、1:11000):所蔵:近代文獻史料収集家(詹洪閣)、測量:王華隆、発行所:奉天鼓樓北各大書坊;瀋陽市詳細地図(1955、1:10000):作成:瀋陽市勘察測絵研究院;瀋陽市街図(1974、1:15000):瀋陽市革命委員会基本建設組勘測隊編制;瀋陽街巷詳図(1989.5、1:13000):作成:瀋陽市地名弁公室、瀋陽市勘察測絵院;瀋陽都市計画用の白図(2004と2012、1:2000):作成:瀋陽市勘察測絵研究院。
- 9) 佟悦:清代盛京城、遼寧民族出版、2009.4
- 10) 劉世英:陪都紀略、同治12年(1873)、(復刻)瀋陽出版社2009.4
- 11) 繆東霖:陪都雜述、光緒4年(1878)(復刻)瀋陽出版社
- 12) 繆東霖:瀋陽百詠、光緒4年(1878)(復刻)瀋陽出版社
- 13) 陳伯超主編:瀋陽城市建築図説、機械工業出版、2010.8
- 14) 鉄玉欽主編:古城瀋陽留真集、瀋陽出版社、pp80、1993

[2013年10月11日原稿受理 2014年1月7日採用決定]